

令和5年度 事後評価シート

【事務事業シート（政策的経費）】

1	当初	事項	林業研究センター試験研究機器整備事業費							予算主管課	林業政策課
	事業概要	概要	木材利用技術の開発を促進するために必要な試験研究機器を整備する。							始期	H22
										終期	R5
	K P I	試験分析機器等整備実施率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	100 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%	目標値	%
				実績値	100 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	742 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			475 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
	見直し方向性	<p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p> <p>試験研究機器である「送風定温恒温器」を導入することにより、県産材の品質検査における高精度な試験が可能となり、KGI実績値の向上に好影響を与えることができた。</p> <p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p>									
2	当初	事項	アコヤガイ異常死対策事業費							予算主管課	水産課
	事業概要	概要	アコヤガイの異常死原因は分かったものの、いまだ抜本的な対策が確立されていないため、被害軽減対策の検討強化及び強い貝づくりを加速化させることで、真珠・真珠母貝生産量日本一を奪還する。							始期	R5
										終期	R7
	K P I	稚貝保有数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度		R 8 年度	
		時点・期間	R4.11時点	時点・期間	R5.11時点	時点・期間	R6.11時点	時点・期間	R7.11時点	時点・期間	
		現状値	1500 万貝	目標値	1800 万貝	目標値	2100 万貝	目標値	2400 万貝	目標値	万貝
				実績値	2281 万貝	実績値	万貝	実績値	万貝	実績値	万貝
				達成率	126.72 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	17,208 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			16,328 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
	見直し方向性	<p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p> <p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>依然として、アコヤガイの異常死は続いているが、5年度の目標達成率は想定よりも高く、事業の進捗状況を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。</p>									

3	当初	事項	媛スマ養殖低コスト・効率化技術開発試験費							予算主管課	水産課
		事業概要	スマ養殖産業化の最大のネックとなっている種苗生産期の配合飼料への早期餌付け方法の確立と、スマ養殖に最適な配合飼料の開発を重点的に進め、低労力化や生残率の向上による生産コストの低減と効率化を図る技術開発を行い、媛スマ養殖の産業化を実現する。							始期	R5
										終期	R7
	K P I	媛スマ生残率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	
		現状値	28 %	目標値	40 %	目標値	50 %	目標値	60 %	目標値	%
				実績値	33.7 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	84.25 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	10,488 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			10,271 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>スマの稚魚の出荷前後の海水温の水温が低かったことが原因で魚病が発生し、養殖初期の生残率が低くなったため、未達成となった。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>KPIは目標未達成であったものの、未達成の原因は明らかにしており、事業の進捗状況を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。</p>								

4	12月補正後	事項	水産試験分析機器等整備費							予算主管課	水産課
		事業概要	地域の産業の近代化及び活性化のための事業、地域の産業関連技術の振興のための事業を対象として水産試験分析機器等を整備する。							始期	H25
										終期	R5
	K P I	機器整備進捗率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	-	時点・期間	R5年度	時点・期間		時点・期間		時点・期間	
		現状値	- %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%	目標値	%
				実績値	100 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	34,448 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			27,449 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p> <p>水産試験分析機器を導入することにより、赤潮原因プランクトンの有無を瞬時に判断できる機器や魚病診断における遺伝子検査ができる機器などが整備され、関係漁業者へ迅速に情報を発信できる体制が構築された。</p>									
	見直し方向性		<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>見直し時期（執行に反映するか、次年度予算※R5年度事業評価の場合、R7年度予算に反映するか）も記載</p>								

5	当初	事項	えひめ型酪農技術体系確立事業費						予算主管課	畜産課	
	事業概要	酪農経営の省力化に資するロボット搾乳の普及促進に向けた乳牛飼養技術の確立やスマート酪農の実装に必要な技術開発等により高収益化と省力化を可能とする「えひめ型酪農システム」の確立を目指す。							始期	R4	
									終期	R5	
	KPI	えひめ型酪農システム活用による乳量増加率									
		KPI種別	上がると良い指標	R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
		時点・期間	R4年度見込	時点・期間	R4~R5年度	時点・期間		時点・期間		時点・期間	
		現状値	(参考) 試験進捗率 100%	目標値	10%	目標値	%	目標値	%	目標値	%
				実績値	10%	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00%	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	3,000千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			3,000千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
	総括（事業最終年度の場合、要記入。） 本試験の実施により、KPIを目標通りに実現した高収益と省力化を実現する「えひめ型酪農システム」を確立し、KGI実績値の向上に寄与できた。令和6年度以降は、本技術の普及により酪農生産基盤の強化に努めていく。										
	見直し方向性	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））									

6	当初	事項	とうもろこし有機肥料利用技術確立試験費						予算主管課	畜産課	
	事業概要	自給飼料栽培（とうもろこし）において、価格が高騰する化成肥料の代替肥料施肥によるコスト低減技術の確立と、豪雨時の湿害からの早期回復による収量安定技術の開発により、県内の自給飼料率の向上に取り組む。							始期	R5	
									終期	R7	
	KPI	飼料用とうもろこしの栽培技術に関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
		時点・期間	-	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	
		現状値	-%	目標値	100%	目標値	100%	目標値	100%	目標値	%
				実績値	100%	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00%	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	1,137千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			1,137千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
	総括（事業最終年度の場合、要記入。）										
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績は計画どおりの成果が出ており、6年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

7	当初	事項	低コスト県産養鶏飼料開発事業費						予算主管課	畜産課	
	事業概要	県内養鶏農家の経営基盤の安定と生産力の強化を図るため、飼料価格の影響を受けにくい地域資源を活用した新たな県産飼料の開発に取り組む。							始期	R4	
									終期	R6	
	K P I	低コスト県産飼料に関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度見込	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間		時点・期間	
		現状値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%
				実績値	100 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	2,400 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			2,400 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績は想定どおりの成果が出ており、6年度以降も計画的に試験を実施することを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

8	当初	事項	家畜生体情報高度利用技術確立事業費						予算主管課	畜産課	
	事業概要	デジタル技術を活用した家畜生体情報の高度利用技術を畜産研究センターにおいて確立し、将来の5G通信網の整備によるスマート畜産の推進に向けた技術支援体制を構築する。							始期	R2	
									終期	R5	
	K P I	酪農・甘とろ豚生産の飼養管理の高度化・省力化に関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度見込	時点・期間	R5年度	時点・期間		時点・期間		時点・期間	
		現状値	100 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%	目標値	%
				実績値	100 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
	コスト		最終現計予算額	1,152 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	
決算額			1,032 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。） 本事業の実施によって、乳牛生体情報を活用した発情の検知率の向上による繁殖成績の改善効果の確認をするとともに、画像解析による銘柄豚の簡易体重測定技術の確立により、KGI実績値の向上に寄与することができた。今後は、今回の試験を通じて得られた知見による更なる高度化・省力化に向けた技術の確立につなげていく。									
	見直し方向性		見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））								

9	当初	事項	畜産研究センター施設機器整備事業費						予算主管課	畜産課	
	事業概要	畜産農家の収益改善や低コスト生産等の現場課題の解決に向けた技術開発に必要な機器を整備する。							始期	H22	
									終期	R5	
	K P I	試験分析機器等整備実施率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度見込	時点・期間	R5年度	時点・期間		時点・期間		時点・期間	
		現状値	100 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%	目標値	%
				実績値	100 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	8,844 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	6,787 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。） 計画通り、畜産農家の収益改善や低コスト生産等の現場課題の解決に向けた技術開発に必要な機器を整備できた。今後は整備した機器を活用して技術開発を進めるとともに、適宜必要な機器の整備を進めてまいりたい。									
	見直し方向性		見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））								

10	当初	事項	銘柄豚収益向上技術開発試験費						予算主管課	畜産課	
	事業概要	肉質の維持と肥育期間の短縮が可能となるアミノ酸比率法を用いた低価格な飼料及びその給与手法を開発することで、愛媛甘とろ豚を始めとする県内の銘柄豚生産農家の収益性向上に取り組む。							始期	R5	
									終期	R7	
	K P I	銘柄豚飼料の低コスト化に関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	-	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	
		現状値	- %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	%
				実績値	100 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	1,067 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	1,067 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績は計画どおりの成果が出ており、6年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

11	当初	事項	かんきつせん定技術習得システム開発費						予算主管課	農産園芸課	
	事業概要	新規就農者のせん定技術指導を効率的に行うため、デジタル技術を活用した「樹体情報の可視化とせん定シミュレータの開発」に取り組む。							始期	R4	
									終期	R6	
	KPI	せん定技術習得システムに関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5~R5年度	時点・期間	R5~R6年度	時点・期間		時点・期間	
		現状値	30 %	目標値	60 %	目標値	100 %	目標値	%	目標値	%
				実績値	60 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	2,100 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
	決算額			1,778 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績は想定どおりの成果が出ており、6年度にはKPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。								

12	当初	事項	キウイフルーツ花粉生産技術高度化試験研究費						予算主管課	農産園芸課	
	事業概要	キウイフルーツ優良花粉を生産する体制が国内で初めて整ったことから、収穫作業の分散化や花粉収量増大に向けた課題解決に取り組む。							始期	R4	
									終期	R6	
	KPI	キウイフルーツ花粉生産量									
		KPI種別	上がると良い指標	R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間		時点・期間	
		現状値	0 kg	目標値	1 kg	目標値	4 kg	目標値	kg	目標値	kg
				実績値	1.9 kg	実績値	kg	実績値	kg	実績値	kg
				達成率	190.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	1,200 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
	決算額			1,048 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度は、想定どおりの成果が出ており、6年度以降も試験を反復することで目標達成と考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

13	当初	事項	サトイモ大規模省力生産技術開発事業費						予算主管課	農産園芸課	
	事業概要	水田の輪作として、儲かる品目であるサトイモの生産拡大を図るため、大規模・広域集団栽培技術をはじめとした生産から出荷・販売に至る一貫的な生産技術を開発する。							始期	R3	
									終期	R5	
	K P I	サトイモの大規模省力化に係る新技術開発数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R3~R4年度	時点・期間	R3~R5年度	時点・期間		時点・期間		時点・期間	
		現状値	4 件	目標値	6 件	目標値	件	目標値	件	目標値	件
				実績値	5 件	実績値	件	実績値	件	実績値	件
				達成率	83.33 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	8,999 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
	決算額			8,661 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
	5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>評価年度 サトイモの新たな栽培・選果・加工の技術開発に取り組み、生産現場へ実装可能な技術を5件(①農業用ドローンの利用により省力防除技術、②乾腐病防除技術、③等級や腐敗芋を非破壊で選別する技術、④親芋の飼料化技術、⑤親芋を使用した食品加工技術)開発した。なお、省力生産マニュアルについては、生産者や関係機関への事業報告を実施したことから、令和6年度に取りまとめることとした。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p> <p>3年間の事業活動により、サトイモ栽培管理の大型機械一貫体系の確立、無人選別技術の開発、親芋加工技術の開発を達成し、今後は生産現場や加工現場への実装・普及を図る。現場実装にあたっては、生産者や関係機関との継続的な連携により早期定着を目指す。</p>								
		見直し方向性	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>見直し時期（執行に反映するか、次年度予算※R5年度事業評価の場合、R7年度予算に反映するか）も記載</p>								

14	当初	事項	スマート農業技術開発・普及促進事業費						予算主管課	農産園芸課	
	事業概要	農業現場での労働力不足を解消し、いっそうの省力化・効率化を図るため、米麦二毛作体系（ひめの凜+はだか麦）における、スマート農業体系の総合実証を行い、実証成果を速やかに横展開し、現場実装を加速化させる。							始期	R4	
									終期	R6	
	K P I	スマート農業新技術開発・普及数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5~R5年度	時点・期間	R5~R6年度	時点・期間		時点・期間	
		現状値	0 件	目標値	2 件	目標値	6 件	目標値	件	目標値	件
				実績値	2 件	実績値	件	実績値	件	実績値	件
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	6,000 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
	決算額			5,092 千円	決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円	
	5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>								
		見直し方向性	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、6年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。</p>								

15	当初	事項	ドローン防除農薬適用拡大普及事業費						予算主管課	農産園芸課	
	事業概要	本県特有の急傾斜樹園地での省力化につながるドローン防除の普及のため、利用可能な農薬の適用拡大及び被災園地の早期成園化に向けたドローンの高度利用や実演セミナーによる推進を図る。							始期	R4	
									終期	R6	
	K P I	ドローン防除適用農薬数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R3年度	時点・期間	R3~R5年度	時点・期間	R3~R6年度	時点・期間		時点・期間	
		現状値	6 剤	目標値	14 剤	目標値	15 剤	目標値	剤	目標値	剤
				実績値	14 剤	実績値	剤	実績値	剤	実績値	剤
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	2,300 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	920 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、6年度も現状の適用拡大状況を踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法の見直しは想定していない。								

16	当初	事項	天敵等を利用したアザミウマ防除技術開発試験費						予算主管課	農産園芸課	
	事業概要	かんきつに発生するミカンキイロアザミウマに対し、各種天敵を利用した生物的防除や物理的防除防除技術を開発することで、かんきつ高品質果実生産による所得向上を図る。							始期	R5	
									終期	R7	
	K P I	アザミウマ防除に関する防除技術確立数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5~R5年度	時点・期間	R5~R6年度	時点・期間	R5~R7年度	時点・期間	
		現状値	0 件	目標値	1 件	目標値	2 件	目標値	4 件	目標値	件
				実績値	1 件	実績値	件	実績値	件	実績値	件
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	965 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	680 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。） 中予地域の施設紅まどんな栽培園から採取されるミカンキイロアザミウマはスピノシン系薬剤に対して強度の抵抗性を獲得しているが、その他の薬剤については感受性であることを明らかにした。これらの情報は、各JAの防除指針の作成に活用されたことから、初年度の目標を達成することができた。									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度は、想定どおりの成果が出ており、6年度以降は天敵の効率的な利用法についてさらに研究を進めることで、目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

17	当初	事項	広域連携型農林水産研究開発事業費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	国等の提案公募型研究資金や企業等の委託資金を活用して、産学官の広域的な連携強化による先端技術等を活用した生産、流通、加工等の現場に密着した質の高い試験研究を推進する。								始期	H16
										終期	
	K P I	採択された提案公募型研究資金事業に関して、目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	85 %	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %
				実績値	96 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	106.67 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	117,828 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	62,675 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5 年 度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、6年度以降も現状のニーズを踏まえ、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

18	当初	事項	未来型農林水産研究プロジェクト推進事業費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	地球温暖化による生産環境の変化や担い手不足など、農林水産業の将来が不透明となる中、持続的な産地の発展を目指すべく、10年先の将来像を見据えた、目標設定解決型の試験研究を行う。								始期	R2
										終期	R5
	K P I	技術開発目標に関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	85 %	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	90 %	目標値	%
				実績値	76 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	84.44 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	6,080 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	5,750 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5 年 度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。） いくつかの研究課題の一部の項目について、想定通りの進捗に至っていないものがあり未達成となった。未達成の項目については引き続き検討を続ける。									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。） 10年先の農林水産業を見据えた基礎段階からの試験研究を対象としていたが、令和6年度以降は、将来的な実用化の方向性を明確化するため、現在取り組んでいる未来型農林水産研究プロジェクトを拡充し、将来目標に対して、シーズ発掘で掘り起こされた技術や県内の民間の最新の知見を組み入れた実用化を目指す試験研究を対象とする「新活力創出試験研究プロジェクト」を新たに創設する。									
	見直し方向性		見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））								

19	当初	事項	水稻品種育成加速化技術開発試験費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	品質・食味が良く収量が高いオリジナル品種を早期に育成するために、DNAマーカーによる品種改良技術を開発する。また、現地適応性調査を省力的かつ高精度に行える調査手法を新たに開発する。								始期	R5
										終期	R8
	K P I	水稻品種育成の加速化に関して目論見・ねらいどおりに研究開発が進んでいる項目割合									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5~R5年度	時点・期間	R5~R6年度	時点・期間	R5~R7年度	時点・期間	R5~R8年度
		現状値	0 %	目標値	40 %	目標値	60 %	目標値	80 %	目標値	100 %
				実績値	71 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	177.50 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	1,200 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	1,151 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度から実施した事業で、初年度はほぼ想定どおりの成果が出ており、今後も計画的に研究に取り組み、KPIの目標達成は可能と考えられることから、今後の事業見直しは想定していない。								

20	当初	事項	異常気象に負けないキウイフルーツ生産技術開発費							予算主管課	農産園芸課
	事業概要	多発する異常気象等の影響を克服するキウイフルーツの安定生産技術を開発し、キウイフルーツ生産量の安定化を図る。								始期	R5
										終期	R9
	K P I	キウイフルーツの高温対策に関する技術確立数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5~R5年度	時点・期間	R5~R6年度	時点・期間	R5~R7年度	時点・期間	R5~R8年度
		現状値	0 件	目標値	1 件	目標値	3 件	目標値	6 件	目標値	9 件
				実績値	1 件	実績値	件	実績値	件	実績値	件
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	1,000 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	941 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度は、想定どおりの成果が出ており、6年度以降も試験を反復することで目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								

21	当初	事項	紅プリンセス高品質化栽培試験費						予算主管課	農産園芸課	
		事業概要	「紅プリンセス」について正品率の向上に向けた技術を開発するとともに、適正な肥培管理や貯蔵条件を検討し、スムーズな産地化を後押しする。						始期	R5	
									終期	R9	
	K P I	紅プリンセスの果皮障害等の防除に関する技術確立数									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R4年度	時点・期間	R5~R5年度	時点・期間	R5~R6年度	時点・期間	R5~R7年度	時点・期間	R5~R8年度
		現状値	0 件	目標値	2 件	目標値	2 件	目標値	4 件	目標値	4 件
				実績値	2 件	実績値	件	実績値	件	実績値	件
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	2,196 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	2,027 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>す上がり果の発生要因の分析により、樹形や結果部位との関連を明らかにし、R5年8月に開催した公開セミナーにおいて、す上がり果を排除する技術を生産者、指導員らに周知した。また、光センサー選果機により、す上がり果が選果できることを示し、R5年産の選果から光センサーの利用が始まったことから、令和5年度の目標を達成できた。</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>5年度は、想定どおりの成果が出ており、6年度以降も試験を反復することで、目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。</p>								

22	12月補正後	事項	農業試験分析機器等整備費						予算主管課	農産園芸課	
		事業概要	電源立地地域において、高品質で安定した農作物生産に資する試験研究やその成果を普及するために必要となる機器、設備の導入を促進し、試験研究、普及指導等の効率化、高度化を図り、農家所得の向上、地域農業の活性化につなげる。						始期	H21	
									終期		
	K P I	機器整備進捗率									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	-	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間	R7年度	時点・期間	R8年度
		現状値	- %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %	目標値	100 %
				実績値	100 %	実績値	%	実績値	%	実績値	%
				達成率	100.00 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	38,218 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	34,723 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5年度	要因分析	<p>評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）</p> <p>総括（事業最終年度の場合、要記入。）</p>									
	見直し方向性	維持	<p>見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等））</p> <p>試験研究に必要な機器の導入を行い、農家所得向上等につながる試験研究を実施しており、現状のニーズも踏まえると、今後の見直しは想定していない。</p>								

23 当初	事項	県産大径材利用拡大事業費								予算主管課	林業政策課
	事業概要	県産材の新たな需要の拡大を図るため、県産材によるツーバイフォー工法部材の開発を行う。								始期	R4
										終期	R6
	K P I	ツーバイフォー工法部材生産量									
		KPI種別	上がると良い指標	R 5 年 度		R 6 年 度		R 7 年 度		R 8 年 度	
		時点・期間	R3年度	時点・期間	R5年度	時点・期間	R6年度	時点・期間		時点・期間	
		現状値	4000 m ³	目標値	8000 m ³	目標値	10000 m ³	目標値	m ³	目標値	m ³
				実績値	9037 m ³	実績値	m ³	実績値	m ³	実績値	m ³
				達成率	112.96 %	達成率	%	達成率	%	達成率	%
		コスト		最終現計予算額	2,000 千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円	最終現計予算額	千円
決算額	1,900 千円			決算額	千円	決算額	千円	決算額	千円		
5 年 度	要因分析	評価年度（「達成率100%未満」の場合、要記入。）									
		総括（事業最終年度の場合、要記入。）									
	見直し方向性	維持	見直し内容の説明（維持・廃止・改善・大幅見直し（事業組替等）） 5年度のKPIの実績はほぼ想定どおりの成果が出ており、6年度以降も現状のニーズを踏まえると、KPIは目標達成すると考えられることから、6年度の執行方法や7年度予算の見直しは想定していない。								